

表1 個別の調査内容に対する各委員からの意見、理由等

県の三番瀬自然環境調査計画案				意見提出委員	意見概要	意見に該当する調査型			県の調査計画案の何々を、以下のように修正・追加すべき	修正・追加する理由	
調査名	頻度	調査範囲・地点数	調査方法			現況把握	原因判別	事業対応			
深浅測量	1回 / 5年	三番瀬および周辺海域	測線間隔：50m 音響探査機を用いて測量 浅い海域は汀線測量	清野委員	全体的な深浅図の作成プラス、一般の測量法による頻度高く観測できる代表測線の設定						
				横山委員	基準点を設けてRTK-GPSによる標高測定						
底質調査	四季（5年に1回）	補足調査と同程度（100地点程度）	底泥表層を1回 / 1調査地点採取	野村委員	付着微細藻類の基礎生産の測定						
				望月委員	調査地点が過大						
				横山委員	底質調査地点の航路内の設定						
				〃	重点調査地点と簡易監視地点の区分						
水質調査	四季（5年に1回）	三番瀬及び周辺海域、10地点程度	バンドーン型採水器で各地点で採水	野村委員	窒素やリンのうち溶存態の測定、ケイ酸塩の測定						
				清野委員	データロガーやテレメーターによる経時調査						
				横山委員	重点調査地点に自動モニタリング機器を設置し、1時間間隔で計測						
底生生物調査	四季（5年に1回）	補足調査と同程度（100地点程度）	底泥表層を2回 / 1調査地点採取 採泥後、1mmの篩に残った資料を採取	野村委員	代表点を選別し、測点数を減少させ、岸辺で密に沖で粗に。猫実川河口の集中調査						
				清野委員	干出部では、カニ類の分布や生物痕の観察						
				望月委員	調査地点が過大						
				横山委員	重点調査地点と簡易監視地点の区分						

魚類調査	毎月 (5年に1回)	三番瀬ほか、15地点程度	上層(水深10~20cm)、下層(50~70cm)の2水深で汀線と平行に約100mを2名で押す	清野委員	稚魚調査							
				"	釣り人の情報収集							
				"	刺網の試験操業							
中層大型底生生物調査	1回/5年	40地点程度	基点から岸方向に40mのライン沿いの海底をビデオ撮影し、解析	蓮尾委員	恒久的な定点を設け、干出面での目視や巣穴、卵塊のカウンターの継続							
				"	NPO等に委託するのに、最も適当な調査ではないか							
藻類調査	1回/5年	20地点程度	ベルトトランセクト法(距離50m×片側幅2m)の藻類を記録	野村委員	市民参加型の調査の導入							
				清野委員	代表的な種類の生育地のゾーニング							
				望月委員	調査頻度の検討							
付着生物調査	四季(5年に1回)	三番瀬およびその周辺	コドラート法、目視観察(ベルトトランセクト)	蓮尾委員	ハンドブックと調査マニュアルを作成し、市民が関わりやすい調査を							
				清野委員	護岸の付着生物調査、護岸構造と対応で類型分け							
鳥類	シギ・チドリ類採餌状況調査	夏、冬(5年に1回)	三番瀬、船橋海浜公園、行徳湿地	定点調査・ラインセンサス法								
	スズガモ等の食性調査	11月~3月(5年に1回)	三番瀬およびその周辺海上	溺死したスズガモの死体を解体								
	経年調査	毎月(5年に1回)	谷津干潟、船橋海浜公園、江戸川放水路、塩浜、日の出等の15地点	定点調査・ラインセンサス法	蓮尾委員	とりあえず現況把握を続けるのがベスト、海上の位置を陸から特定出来る目視観察用地図の作成						
					清野委員	鳥類の物質循環における役割と量の推定						
					"	満潮時の海岸や陸域の利用状況の把握						
"					漁業被害の評価							
"	"	「鳥暦」を利用した県民参加型の調査										

表2 新規に実施すべき調査について、各委員からの意見と理由等

意見提出委員	意見概要	意見に該当する調査型			新規実施調査の内容			新たな実施が必要な理由
		現況把握	原因判別	事業対応	頻度	調査範囲・地点数	調査方法	
蓮尾委員	航空写真の確保							
	定点撮影							
野村委員	セディメントトラップなどによる浚渫窪地における調査							
	江戸川放水路における生態系の再確認							
清野委員	空中写真撮影							
	土砂の動態把握							
	セディメントトラップなどによる台風や出水時などの調査							
	流入河川や水路の流量の把握							
	データロガーなどによる雨水や陸起源のゴミの流入・停滞・拡散状況の把握							
	重要地点の流向・流速の観測							
望月委員	河川、周辺都市域などの調査							
	谷津干潟・行徳湿地・その他周辺湿地調査							
	東京湾全域の調査（可能かどうかは別として）							
	青潮調査							
横山委員	流入河川（江戸川放水路）の水質・土砂調査（特に、洪水時）							